

志望校突破の3条件を備えたグノーブルに6年間を託してほしい

グノーブルは2006年夏に開設したばかりの新しい大学進学塾ですが、新宿と渋谷に設けられた教室には、東大をはじめとした難関大学や国立大学医学部をめざす中学1年生から高校3年生までが通い、活気あふれる授業が行われています。その特長は「確かなメソッドで指導する」「一人ひとりの力を伸ばす」「情熱を持って授業を行う」の三つ。通塾生は筑駒、開成、桜蔭、女子学院などの有名中学・高校に通う生徒たちです。過去10年間で東大合格者を470名以上指導した代表の中山伸幸先生に話を聞きました。

「中高一貫校に通う生徒にこそいい塾に通ってほしい」

首都圏では、有名校に通う中高生の間で通塾しています。素朴な疑問として、日本でも有数の進学校に通う生徒たちに、どうして塾が必要なのでしょう。

中山 理由の一つとして、学校の現状を挙げる事ができます。伝統校から新設校、宗教系の学校、大学受験のための専門コースを持つ学校まで実にさまざまあります。志望校を選びたいときも、大学進学実績やカリキュラムだけでなく、校風や教育方針



針、通学圏なども加味したはずですが、つまり学校には、勉強のほかに、学校の行事や友だちとのつきあい、先輩や後輩といったタテの関係、手本となるすばらしい先生との出会いなど、かけがえのない体験をしながら過ごすという役割があるのです。

しかし、学習指導の面に絞ってみると、一流といわれる学校においては「理想を追う」傾向があるように思います。つまり、大学進学に向けて理想論は唱えるのですが、具体的にどのようにつまみ食いしていかの指導が薄く感じています。本当に優秀な子は、それですんなりと希望の大学に入ることができのかもしれないが、多くの生徒には志望大学、志望学部に入るための努力がやはり必要なのです。そのときに、学校に

努力の術(すべ)つまり勉強のシステムが整っていないと、生徒たちの本来持っている知の力を引き出し、伸ばしたりすることができません。

スポーツの世界でもそうですが、優れた身体能力を持っているアスリートでもコーチによって成績が左右されます。コーチが個人の能力を見いだし、引き上げ、どのようにトレーニングをし、目標に向かわせるかで勝敗が分かれるのです。知力についても同じことがいえるのではないのでしょうか。

中高6年間は「さなぎ」を経て大人へと成長する時期

なかには「通塾は必要ありません」

たり。これが思春期という「さなぎ」状態です。自我を形成し、新たに生まれ変わるほどの変化には苦しみもたくさん伴います。青年になるのはそう簡単ではないということです。

この時期は、大人が普通に過ごしている姿を手本として示しながら、あまりうるさくいわず、ある程度そっとしておくことが大切なのです。しかし、面倒を見過ぎる学校は逆にそれが苦手です。あれこれ言いつつ、逆に生徒のやる気をそいでしまつたのです。また、あまりにも学校が単一のシステムで押し通そうとする、結局生徒は一人では勉強できなくなる懸念もあります。

かといって、中学に上がった途端に大人扱いして、いきなり手を離して歩けるかというところでありません。いままで手取り足取りで教わっていたのに、突然「さあ、これからは自分で」と言われても、子どもは困ってしまうでしょう。

「こつしたことを考えながら」「ちよつといい場所を探ることが大切です。」「いい塾」「こつしたのはそこに力を入れて当てるのだと思います。」

「いい塾の条件は三つ」「いい教師・いい教材・いい仲間」

中山先生がお考えになる「いい塾」とはどんな塾ですか。

中山 「いい塾」には三つの条件がある



中山伸幸先生

「いい教師」とは、まず「いい教師」がいること。いくら知識や学歴があっても、教える力を備えていなければいい先生とは言えません。二つ目は「いい教材」とは言えません。そして三つ目が「いい仲間」がいること。いいライバルが持てる環境というの、人生のあらゆる場面でとてもよい効果をもたらします。

「いい教師」について、もう少し詳しく教えてください。

中山 一言でいうと、「二つの磁石」を持つということです。一つはマグネット。私たちは英語で「magnet」や「talent」と言っています。英語ではタレントは才能のある人たちを意味します。つまり、「才能のかたまり」である生徒たちです。生徒たちが「この先生についていこう!」と思える魅力、知「へ引きつける力です

ね。「授業が楽しい!」「先生の話引きつけられる!」と思えるときには、勉強が楽しく、おもしろく、意欲的に取り組めるものになります。

また、もう一つの磁石は方位磁針の「compass」です。これは塾講師としてとても大切なスタンスです。compass(コンパス)は「共に」「pass」は「歩く」という意味があります。つまりグノーブルの先生は生徒たちと共に歩いていくということです。

毎回の授業で個別添削を行い、一人ひとりの生徒たちをしっかり見つめていく。さらには1週間、1学期、1年と、短期から中・長期にわたり、生徒と共に行く。そのためには、生徒の成長に応じてしっかりと引張っていきける力を持つことが大事だと考えます。めざす大学に合格し、大学に入ってから活躍できるように正しい方向にナビゲートするコンパスを先生は持っているべきだということです。

「ん」と謳っている学校もありますね。中山 そういう学校でも、生徒の多くが塾に通っているのが現状です。先ほどお話しした一流校とは逆に、あまりにも大学受験に特化したシステムを持っている学校というのは、生徒たちの面倒を見過ぎる傾向があるのです。



中学1年生から高校3年生までの6年間というのは生徒たちが大きく成長する時期です。昆虫にたとえると、幼虫がサナギを経て、成虫になるようなものです。中学受験は子ども一人ではなく、両親や学校・塾の先生があらゆる角度から見守り、導き、支えていきます。とても手をかけるわけですね。もちろん子どもも素直にそれを受け止めますし、愛情を注いでくれる親の期待にも合格で応えたいとがんばります。

ところが中学に入ると状況が変わります。「親より友だち」と親を煙たがったり、大人や社会に反抗してみ

うとします。よりどころとする成功例は自分、サンプル数は1人が、周りの友人の数例で、まるで受験については何でも知っていると誤ってしまいがちです。自分を成功に導いた方法が最善だと思いついて、そこから融通が利きません。それぞれの生徒の能力に応じた確かなアドバイスができていなかったり、「こつ」や「さなぎ」の視点に欠けた生徒管理だけをしたりという恐れもあります。

生徒の理解度を確認しテキストを常に更新する

次に、教材についても教えてください。具体的にグノーブルではどのような教材を使って、どのように指導なさっているのですか。

中山 当塾では演習を大切にしています。教材・テキストは講師による手作りです。短いサイクルで更新するようにしています。各教科とも授業中にも授業外でもどんどん個別添削をします。その結果から見えてくる問題点を把握し、次回使用するテキストにただちに反映させていくわけです。

教材がひんばんに更新される。



「生徒がおもしろい、楽しい教材」だと話しましたが、この「おもしろい」も生徒の成長とともに変わっていきまます。小学生のうちは、生徒は勉強の基礎となる「知識の習得」をおもしろく感じ、スポンジのように知識を吸収します。ところが、中・高校生になると、論理的な思考におもしろさを見いだすのです。

英単語を例に挙げると、単に単語を丸暗記するのではなく、論理的に覚えていくとおもしろく感じます。具体的にお話ししましょう。

たとえばGNOBLEの口癖は緑主体ですが、これは生徒たちの健全な成長を願っています。greenの「成長」が原義なのです。grass「草」も育つものだからです。grass「草」光るからです。gold「金」、glitter「きらきら輝く」、glare「きらきら光る」にも使われている「輝き」を表すのです。こうして英単語がなっていくところは興味を湧かしますし、このように覚えていけば未知の単語に出会っても戸惑ったりしません。たとえばthe sunset glow「口没の輝き」、夕焼け「このかしらと動を働かせることができるでしょう」。

GNOBLEでは英語に限らず、このように有機的につながった知識を提供することで、各教科・分野における本質的な理解力を高めていくような指導を行っています。

英語においては、生徒たちにインターネットによる「音声配信」もされています。

文のように解析することが知的なことだとする指導では、真の知的なコミュニケーション能力は養えないのではないのでしょうか。

GNOBLEの塾生の未来は、必ずや世界とつながっています。生徒たちには、世界の人々と知的にコミュニケーションできる大人になってもらいたいと考えています。

最後に、これからGNOBLEに通おうと考えている生徒たちとその保護者の方へのメッセージをお願いします。

中山 子どもたちは元来、知的好奇心のかたまりです。「知ること」や「考えること」、「工夫すること」がみんな大好きなのです。ところが、私は中学、高校になつて勉強を楽しくなくなつた子もたくさん知っています。それは勉強が「can」や「able」から「must」、「have to」になつたらではないで



中山 さきほど、「いい教材」とは

本質を理解・体得させるための生きた教材配信システム

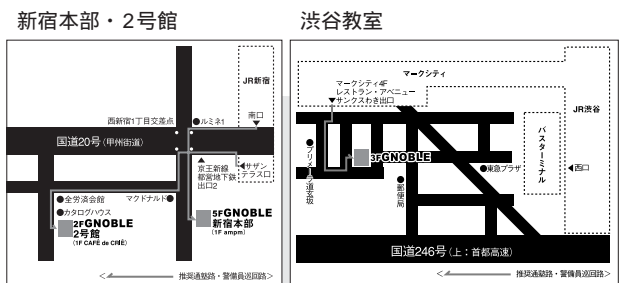
中山 子どもたちは元来、知的好奇心のかたまりです。「知ること」や「考えること」、「工夫すること」がみんな大好きなのです。ところが、私は中学、高校になつて勉強を楽しくなくなつた子もたくさん知っています。それは勉強が「can」や「able」から「must」、「have to」になつたらではないで

しょうか。

私が名付けたグノーブル(GNOBLE)は造語です。GNはknow(知る)と同じ語源で、「知」、BLEはableと同じで「できる、能力」を表しています。そして、真ん中のOが「輪」として前後の文字をつないでいます。知の力をつけ、同時に人とのつながりも重んじることができる人を育てていきたいという思いからです。

はし、素質、能力をつましく引き出し鍛えていけるよう、グノーブルでは一人ひとりしっかりと向き合い、みんなが生き生きと勉強できるお手伝いをしたいと思っています。講師は全員、一人ひとりの名前を覚えて発問しますし、活気あふれる授業を行っています。「一生懸命にやるのが当然」という雰囲気ですから、困難な問題に遭遇しても意欲を失つことはないでしょう。また、講師は情熱を持って一人ひとりの抱え

る課題を見極めて導くので、質問なども気軽にできる雰囲気です。もちろん、気さくに雑談もします(笑)。生徒たちに接しながら、真摯に取り組むことの大切さを身をもって示せば、と思っています。そして、大学受験はもちろん、将来、人生の夢を叶えるための能力が備わるよう、講師の力を結集し、一生懸命サポートしていきたいと考えています。



JR「新宿」サザンテラス口徒歩2分(南口徒歩3分)
京王新線・都営新宿線・都営大江戸線 出口2 徒歩1分
2号館は2007年3月から使用します。

GNOBLEのここがスキ! ここはカイゼンしてほしい!
2006年12月グノーブル生アンケートから

- 先生が優しい&おもしろい! 添削が多いので自分の弱点が分かる。
- すごくわかりやすい。楽しい。校舎キレイ。
- 授業の説明がわかりやすいので問題に感動することがある。
- 渋谷に校舎を増やしてほしい。
- 授業のスピードがよい! 授業が楽しい!
- 渋谷校に鏡をつけて下さい!(トイレに)
- 宿題の添削がていねいで、先生の最後のコメントが結構変身し、授業に実いがあるのがとても良い。教え方が丁寧でわかりやすい。
- 先生が素晴らしい。登壇員の人がいい。授業がズーッと集中出来る。
- パソコンで英語の音声をダウンロードするよりCDの方がいいな。
- ホームページが地味でいい。GNOBLEのひびきがいい。
- 1回の授業で脳が活性化される気がします(笑)
- 音声教材を口実にiPodが買える?
- わかるまで教えてくれる。授業でとっているノートがすごく役に立つ。
- 問題の解説がわかりやすい。全ての教科の先生が信頼できる。
- 先生がやっぱりとてもいいです。授業のすすめ方が計画的! 2時間とは思えない授業の濃さです。
- 復習の仕方が劇的に変わり、英語を英語のまま捉えられるようになってきた。何より先生が素晴らしい。
- 勉強法を詳しく教えてくれるのがいい。HPからの情報やテキストダウンロードが簡単で良質。
- 先生の人柄も尊敬できるので、学習意欲がわく。
- 教室はせまいけど、先生の心は広い(笑)
- 授業を終えたあとは達成感がある。
- 質問しやすい。先生たちがどの生徒にもフレンドリーですぐ名前を覚えてくれるのがとても良い。
- 毎週来るのが楽しみ。
- 電気も先生も明るい。

www.gnable.net/w/で、すべてのグノーブル生の「声」を聞いていただけます。右のQRコードで、携帯でも簡単にアクセスしていただけます。

スタートダッシュ講座 英語・数学 新宿本部

英語が使える人への第一歩。算数から数学への第一歩。

対象：中高一貫校の新中1生(現小6生)
科目：英語・数学(各2時間×4日間)
日程：M日程(数学のみ) 2/24(土)~27(火)
E日程(英語のみ) 3/3(土)~6(火)
A日程(英数選択) 3/17(土)~20(火)
各日程とも 17:00~19:00
受講料：1科目 16,000円(税込) 3月下旬にも開講

プロフィール

GNOBLE ~知の力を活かせる人に~

所在地
新宿本部
〒151-0053 渋谷区代々木2-7-5中島第2ビル5F
TEL: 03-5371-5487 FAX: 03-5371-5488
受付時間：月~金曜日15:30~21:00
土曜日14:00~21:00 日曜日は休み
http://www.gnable.net E-mail: info@gnoble.net
渋谷教室
〒150-0043 渋谷区道玄坂1-13-6青藤ビル3F